

予算案 識者に聞く

法政大教授

小黒一正 氏



財政の硬直化に、今回も、手は打てなかった。

2023年度予算案の歳出は114兆円を超える規模となった。1990年度(66.2兆円)に比べて50兆円弱増え、約1.7倍になった。税収は消費税の引き上げでやや伸びているが、債務残高は右肩上がりだ。借金である赤字国債で歳出の増加を賄い、財政基盤はほぼ強化できていない。

主因は、社会保障費や国債費の増加だ。高齢化を背景に社会保障費は36.8兆円と90年度の3倍以上

に達している。

過去に発行した国債の増加で、返済や利払いに使う国債費が約8割増えて25.2兆円に膨らんだ。科学技術などの予算が増やせず、将来の成長に向けた投資に振り向けることができていない。

今回の予算編成では、防衛力強化のための費用を大幅に増やした。しかし、基本的な経済力や健全な財政も、防衛力の基盤である。有事の戦費調達には、大量の国債発行が必要になる。平時の財政健全化が大切だ。

債務残高の国内総生産(GDP)比が200%前後にあるのは、日本と、ギリシャなど限られた国だけだ。政府は、歳出抑制に向けて、長年の課題である社会保障改革を進めてほしい。

平時の健全化 大切